



2026年5月14日

各 位

株式会社 R V H  
代表取締役社長 荻野 善之  
(東証スタンダード・コード 6786)  
問合せ先 IR・広報室  
電話 (03-6277-8031)

## 営業外収益の計上及び通期連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2026年3月期決算において営業外収益を計上するとともに、本日「2026年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました2026年3月期連結業績につきまして、前期実績値(2025年3月期)との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は2026年3月期に係る連結業績予想を公表していないため、増減につきましては前期実績値との比較となっております。

### 1. 営業外収益の内容

資産運用関連セグメントのファクタリング事業において、一部債権の回収が進捗したことにより、貸倒引当金戻入額56百万円を営業外収益として計上いたしました。また、再生可能エネルギーセグメントの太陽光発電関連事業において、EVステーション運営に係る助成金10百万円を営業外収益として計上いたしました。

### 2. 2026年3月期通期連結業績と前期実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期(2025年3月期) 実績(A)	1,469	△50	△31	△230	△9.12
当期(2026年3月期) 実績(B)	1,251	△49	48	29	1.16
増減額(B-A)	△217	1	79	260	
増減率(%)	△14.8	—	—	—	—

### 3. 差異が生じた理由

売上高については、主に資産運用関連セグメントのファクタリング事業において、既存債権の回収活動を最優先課題として営業規模を縮小したこと、不動産売買事業において不動産市場の競争激化により受注機会が限定的になったこと等により、前期実績を下回る結果となりました。

経常利益については、主に「1. 営業外収益の内容」に記載のとおり営業外収益を計上したこと等により、前期実績を上回り黒字転換いたしました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、上記の増益要因があったほか、前期は貸倒引当金繰入額、減損損失等の特別損失191百万円の計上いたしましたが、当期は当該事象がなかったこと等から、前期実績を上回り黒字転換いたしました。

以 上